



在
 京
 大
 使
 美
 我
 恭
 家
 集
 六
 卷
 合
 冊
 全
 一

特 別
 イ 4
 3163
 40



冊
14
3163
40

左京大夫義恭家集

卷一

卷二

卷三

卷四

- 一の巻 夏の序
- 二の巻 夏の序
- 三の巻 秋の序
- 四の巻 冬の序
- 五の巻 春の序
新刊 新刊 新刊 新刊 新刊
- 六の巻 雜別 雜別 雜別 雜別 雜別
新刊 雜別 雜別 雜別 雜別

左京大夫義恭家集

六卷全冊

全

外拾遺別卷上下冊

全卷一アリ 左京大夫
義恭家集別卷ト
以早アリ

右一集字一全一不更一いゝと申ん〜
一〜
口及乃所取ふ〜
い〜
あ〜
ま〜
も〜
も〜
右京右史義泰家集別巻と題し〜

左京太史義泰家集 一

春

年竹五葉

通村公臣

名手一抄^紙子う作との字を年と作しは是西ふは是て春の事なり

五葉

後水尾院初臣

春も亦もとくくけゆく海波のさけし恵のこもやあつらん

光原の齋次

ゆるゆる小庭のさくけはほはほ保のさきふとるさあかろふ茶

通村公臣

ゆき氷まの解そめて来る春のたけの序代とけやみまらん

山内三兵衛

春のころの物けの煙ちあつく軍のちやまの序代とけやみまらん

同

けのころのしずくおけり〜
天の春のあけけと出る日のちの光を菊よ〜

同

天の春のあけけと出る日のちの光を菊よ〜



碧岩の傳をけりて三巻の白と

通村云

雅意に
資すに

通義云

名取川氷の下のうも枯れもよめしと枯て春や多つらん
名取下けり判りに霞の衣川判り減る判り波ふ判りる判りや多けり判りて
明る判りる判り年と海たてく白川も霞の宮の名もや多つらん
碧岩少く二十二のこゝか

通義云

身と心枯て二十餘をふ多けり判りのねも海に木の春の心判りじぬ
三巻天

資すに

天傳を意の雲の海に霞多ちる判り三巻の春の心判りじぬ
三巻目

通義云

子子振神意のこゝに出る日の天の岩にる判りり年ほの判りね
三巻目

雅意に

春來ぬし時と多く判りる判りふ今物判りや日判りふ判りる判りる判り
三巻目

通義云

春のけり分る判りる判り玉判りの判りたの判りじ判りる判りと判り思判りふ判りみ判りら判りせ
春判りる判り白判りの判りさ判りけ判りり判り

同

春のけり判りる判り毎判りの判りち判りは判りき判りま判りる判りら判り思判りふ判りる判り春判りと判りむ判りして
初春待判り也

通村云

春判りぬ判り人判りも判りつ判りき判りて判りる判り枯判りも判りす判りる判り春判りや判りし判りる判り春判りる判りる判り
初春見判り也

通義云

春判りぬ判り時判りを判りて判り着判りる判り浦判りつ判りる判り春判り代判りの判りあ判りる判り春判りぬ判りる判り春判り
早春

通村云

春判りぬ判りの判りみ判りる判り初判り春判りの判り分判り物判りけ判りり判りる判り春判りぬ判りる判り春判り

道見親王
通賢
三頁

子妻 履

けりて見
まきしる妻の露のふくまひのまはあまじうれ計紀

けりて見
心花今小ゆのまをよまきて同くうらと

松の戸も明け妻をよまねるこまのほとをふくはむ山のそ

早妻 冥

通賢
三頁

妻を又名のこ産の雲の戸をゆまじうさふまふりてけり

早妻 冥

同 妻を又名のこ産の雲の戸をゆまじうさふまふりてけり

早妻 冥

通賢
三頁

けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見

早妻 冥

同 けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見

早妻 冥

通賢
三頁

同 けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見

早妻 冥

通賢
三頁

同 けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見

早妻 冥

通賢
三頁

同 けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見
けりて見

通賢
三頁

春の口ふつかう女舟のいそ柳深枝も梅う香をきかふ

紀伊黄門家司海色若校与令洞知遊西津崎
法樂小春風と

弘安三

西津崎玉しろ子西津崎時ら凡春のゆるゆる
春風春水一時来

通安三

春風冬をゆるぬみちの川氷の割やけけこゆくらん
春うせ氷吹く梅川浪の勢もやけけこゆく華

同

雪消春水来

新章
弘安三

白ゆふこせみしる山のともみしるふくさるる川水
毎山有春

通安三

筑波根のせしる霞のしる春は忽と多ちももらん
家々祝春

同

弘安三

とくくは春こがくぬ家ぬねや早の本けねのえり
草よりして大ねる長屋のくけを家々の春もく風

雅章三

同

物なく荒れくふふす境くぬ取序代は春やん
あふれく見物もあふ春のあや柳の糸のふふん春

弘安三

春のあやの田は地もあふ海や朝も梅ふるくし
東風暖入簾

通安三

こ次のぬか梅うきあうきさるるあやしる
玉あれのこさる白くす物見乾梅うきあふぬ風もたけし

弘安三

春生人意中

山賢三郎

けしけしと鄙め付けて来る春のころと花のみやこ人も

華棘皆樂春

資文三郎

九重の春を毎のむもけしけしやちりもあしきし

子目

雅章三郎

十うと色は花もさかしく二葉もさきか葉をてししく少松うか

同

子目ける花もあけ出て雪もあふくもあめふりしく少松うか

通茂三郎

あやこしと春のあじやして人並み所ふ出て秋もしく少松うか

物産

山賢三郎

あちうもさきいさう折れ物目れ花を出てる由のともあし

春のあけと春のあけと通茂三郎

雅章三郎

あやこしと春のあじやして人並み所ふ出て秋もしく少松うか

山賢

山賢三郎

あやこしと春のあじやして人並み所ふ出て秋もしく少松うか

通茂三郎

あやこしと春のあじやして人並み所ふ出て秋もしく少松うか

山賢

山賢三郎

あやこしと春のあじやして人並み所ふ出て秋もしく少松うか

山賢

後水尾院初郎

あやこしと春のあじやして人並み所ふ出て秋もしく少松うか

山賢

山賢三郎

あやこしと春のあじやして人並み所ふ出て秋もしく少松うか

山賢

山賢三郎

あやこしと春のあじやして人並み所ふ出て秋もしく少松うか

海子原

資子日記

同

同

物あす小庭たけしゆく海子の海や岸のわたりを伸かぬく免て
明鏡の月も庭ふ多ちこめてほのふり子志田信太乃海子
こいつものからしむるの歌橋名あ多つ波やうけをそむん

庭隔遠樹

資子日記

日

日

日

日

資子日記

明く山の麓くまこ免て庭の上ふこみわたり
清は深海海はこふりつる日の光ふり出むこ保のまつ原
けは海や鳥は浦舟ち手はゆきをりやふりけめる志賀のこみ松
海生小み糸我まむこみ庭は海向の遠き浦うま原
眺あの日を遠きて海うけはね原うまむ浦のあき不の
涙のちも庭のちふ白くせしてみこくもさううけまうこ

雪

同

南枝暖待雪

通子日記

雪梅を曇るさうこ枝あけぬるをこいまて雪の如く
うらむは南ふすうま多前て先雪く梅も多も梅は

物雪

資子日記

通子日記

花と又白くぬるも白い河ねや物見か出るあふり雪
物白らんかに枝を分てゆく梅は雪をよせかふるり雪

雪

資子日記

通子日記

雪は雪の氷きゆるさや雪ふりせくあめのかうし
雪のたをりけうあおぬ雪もこあめり雪の雪を思ふ

林雪

資子日記

雪を枝竹はけ枝ふみり雪入花の梅もまねくうし

通村云云

松雪
ちりりせぬ雪の言成るる茶の香をねふ笑て生けり雪

毛廣云云

梅問雪
雪も包花ふらりる雪のつらも雪も梅の香をすく

通村云云

雪是年春交
玉ぬれりこ雪は雪の雪の雪ふせと梅すく雪の形

同

若菜
池ふすむ雪のよきいと雪も梅の十と笑てや梅く

弘賢云云

冬うら野古く雪の雪梅て今を雪く雪雪つむ雪を

通村云云

雪雪も老せぬ雪と年々雪ふ梅いそつむ雪雪ふ

雪若菜

弘賢云云

ふくは雪の未遠雪雪はや雪くころと雪は雪ん

通村云云

田色若菜
雪とや雪梅しりし小山田は雪一田つみ雪雪つむし

同

野雪言
雪雪の雪く雪く雪く雪く雪く雪く雪く雪の原

通村云云

残雪
雪く雪く雪く雪く雪く雪く雪く雪く雪の原

弘賢云云

梅 雪梅法樂小
雪く雪の雪く雪く雪の雪く雪く雪く雪く雪の原

詩云。

おうせ侍りし花はな

雅章まさ

着来梅

通茂ともしげ

梅うめ風

公賢こうけん

梅花うめ夜よ薰かほ

通茂ともしげ

晚梅

同

朝梅

おほえ花はないいややももかかーーここのの花はなかかここるる梅うめのの風かぜ

咲さくくももるる花はなのの梅うめもも匂におははははのの信しん成じやうここいいのの香かほふふ白しろくくん

思おもふふ事ことああるる朝あさもも梅うめのの香かほもも神かみああみみししたたててここるる風かぜをを吹ふく

園うののいいぬぬ吹ふくくるる風かぜもも梅うめのの香かほももここのの梅うめのの花はなのの香かほををすす

よよににささるるぬぬ花はなのの香かほををすするる有ありりのの月つきのの汗あせ方かたもも梅うめのの下した風かぜ

公賢こうけん

梅うめ薰かほ袖そで

雅章まさ

梅うめ交まじ松まつ

元彦もとひこ

梅うめ交まじ柳やなぎ

公賢こうけん

南みなみ北きた梅うめ花はな

同

同

江梅

ももちちりりのの梅うめももははせせゆゆのの白しろいいややもも梅うめのの花はなもも吹ふくく

庭にわももふふ吹ふくくももここののぬぬ花はなもも柳やなぎもも吹ふくく梅うめのの香かほもも吹ふくく

おおももいいややもも吹ふくく中なか庭にわやや目めのの花はなののぬぬもも吹ふくく梅うめのの香かほもも吹ふくく

目めのの花はなのの香かほもも吹ふくくぬぬ花はなもも吹ふくく梅うめのの香かほもも吹ふくく

通茂ともしげのの假かり字あざ遺あとナリ

通村云云

白ひける香はくありく一永嬉ふら赤雲のふふける梅うえ
柳先花緑

同

花とくろほゆふこそそや青柳の糸の緑も少ゆふ物な

行路柳

雅章の
資子云云

青柳のうけむるふら若し相付し梅のいろかきむん

水色柳

通村云云

水の色こそは水原の浮葉やきつえとひん春は青柳

同慶殿

浅緑又そめうけて流の糸ふもゆらせある春は青柳

同点

玄田川岩根の柳春も又みらるる水もあつち

春柳

同

波うける春の柳のうけふ花水の春もみけるし流ふ

平政尚月

通村云云

まうしる春も月と春もくも春もあはれぬ春をいふよ

春月出

通村云云

ゆらぬあふあふらふはむ月うけふ春もうけてする春も

為鳥今ふ春山月このまよふあはれ

以賢云云

こけ春をみふふと春ある春あはれや花雪ふの木の間は月

浦春月

元彦云云

地電の浦の煙もまきしてあはれくふく春むつさうけ

出栖春月

通村云云

むうえ一花の春もあはれくふく春のまよふと春むつ目乳

春晴

海峯山

同

海峯山に上りて林の中を過るところふかしの木のこゝろは静かな
有明の月と木梢の影の交るをうらむるまきのあけしの
聲がふ初院より日ありて山人のまゝ合せて音
よみゆきふかしのこゝろと

通夜山

山妻暎

同

山妻に指し月の影をてとちをさるるあけほの
海色春暎

通夜山

浦妻暎

山妻山

夜半の月と海をてとちの浦のまきのあけほの
浦妻暎

妻山

通夜山

系妻山

通夜山

山

山妻山

山妻山

通夜山

通夜山

通夜山

山妻山

山妻に指し月の影をてとちの浦のまきのあけほの
海色春暎

通村の丘

音から林を麻の川を流るる水はくさくさして流るる

云雀

飛鳥の丘

春の日は長閑きやあゆむ心ごとくつらさをとらうらむ

糸柳

山崎の塚

あゝの春縁をあゝ枝の上をたゞみいそ糸はくくう

或降土寺の石燈籠

同丘

あゝの春縁をあゝ枝の上をたゞみいそ糸はくくう

花

飛鳥の丘
山崎の塚

桜咲くはあゝ枝の上をたゞみいそ糸はくくう

花

飛鳥の丘

長閑き日はあゝ枝の上をたゞみいそ糸はくくう

飛鳥の丘

あゝの春縁をあゝ枝の上をたゞみいそ糸はくくう

花

飛鳥の丘

今年又もあゝ枝の上をたゞみいそ糸はくくう

花

山崎の塚

あゝの春縁をあゝ枝の上をたゞみいそ糸はくくう

花

飛鳥の丘

あゝの春縁をあゝ枝の上をたゞみいそ糸はくくう

山崎の塚

通村の丘

あゝの春縁をあゝ枝の上をたゞみいそ糸はくくう

花

飛鳥の丘

あゝの春縁をあゝ枝の上をたゞみいそ糸はくくう

通村三良

昔の井の人の生家の様子をいふ詩もやうなうらなうらな

山登り三良

舟のあふくさるる一か羽衣のあまのこゝろをいふ

同三良

春うけのあまのこゝろをいふ

同三良

あまのこゝろをいふ

見花

山登り三良

花のあふくさるる一か羽衣のあまのこゝろをいふ

見花

山登り三良

花のあふくさるる一か羽衣のあまのこゝろをいふ

同

花のあふくさるる一か羽衣のあまのこゝろをいふ

見花

通村三良

花のあふくさるる一か羽衣のあまのこゝろをいふ

終日見花

通村三良

花のあふくさるる一か羽衣のあまのこゝろをいふ

花のあふくさるる一か羽衣のあまのこゝろをいふ

山登り三良

花のあふくさるる一か羽衣のあまのこゝろをいふ

見花

山登り三良

花のあふくさるる一か羽衣のあまのこゝろをいふ

見花

山登り三良

花のあふくさるる一か羽衣のあまのこゝろをいふ

見花

山登り三良

花のあふくさるる一か羽衣のあまのこゝろをいふ

山登り三良

花のあふくさるる一か羽衣のあまのこゝろをいふ

花憶昔

以質字

そのむくくその初はしとたのめせよ花のさの感あるを

文花

雅章字

吟師の柳橋をゆく田のあふぬららもつたあれりやせ

月花

花原字

吾等も橋の枝のうけてみる花のわくみるはあはは

花間月

同

山橋おと木と河橋とくまてうせ花の若から春のあの日

花満月

通村字

花のさふいうをわけて花間よとをある日の花もかきほ

花似

同

資字

雅章字

同

みこさけく末もあじうき花のさ枝もうらまへ花のさき
花のさの面影あうらまの屋上の花ふさふさくるう芳
みこさけや花のさき花のさき花のさき花のさき
多あしくうらま花のさき花のさき花のさき花のさき

花草

通村字

花のさき花のさき花のさき花のさき花のさき

花後

雅章字

花のさき花のさき花のさき花のさき花のさき

以質字

花のさき花のさき花のさき花のさき花のさき

雅章の長

春のふゆいしとて人とうちあそぶ花^花もさし

花可

同

花の言とるえてもゆく日とあははるこあそ^可あそぶ

花

同

物も紅白いとあそぶ花の上ハ夕あほけるいそと

同

白心ゆ花もあそぶあそぶ物もあそぶの日とあそぶのこも

花下高母

同

あうけそよあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶ

花下送目

弘賢の長

あそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶ

夕花

雅章の長

夕はく日入あそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶ

山花

弘賢の長

あそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶ

同

あそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶ

山中花夕

雅章の長

あそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶ

花山花

通村の長

あそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶ

弘賢の長

あそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶ

花山花

通村の長

あそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶあそぶ

花下高母

深山花

後水尾院初五
るまてくらんくもまらうくはまらぬ深山の花ふくはれぬ
弘賢の長
春毎ふらうくまらとふくはれぬ深山の花ふくはれぬ
山ゆりも深山の花ふくはれぬ深山の花ふくはれぬ
深山十景の内深山花と

弘賢の長

深山花

道元親五
みふつくきりゆくはれぬ深山の花ふくはれぬ
深山十景の内深山花と
深山花
古演花

道元親五

通村の長

深山花

新章の長
まらうくはれぬ深山の花ふくはれぬ深山の花ふくはれぬ
深山十景の内深山花と
深山花
同路花

同

資子の長

深山花

新章の長
深山十景の内深山花と
深山花
深山十景の内深山花と

弘賢の長

深山十景の内深山花と

弘賢の長

高野川にちりぬ桜の影をえんえて花を手にしつゝ流のさる波
お良遠にさる本寛亭の余も同くを

同

つげ多し春の花ふくまひて桜の影をえんえて流のさる波
河花

雅章の長

春風ふ桜の影をえんえて流のさる波
河を花

資子之長

桜の影をえんえて流のさる波
春風ふ桜の影をえんえて流のさる波

通村の長

湖上花
花の影をえんえて流のさる波

同

雅章の長

花の影をえんえて流のさる波
里花

同

花の影をえんえて流のさる波
花の影をえんえて流のさる波

同

花の影をえんえて流のさる波
古花

資子之長

花の影をえんえて流のさる波
花の影をえんえて流のさる波

雅章の長

花の影をえんえて流のさる波
花の影をえんえて流のさる波

同

花の影をえんえて流のさる波
田花

通村云云

桜ゆく山田の春も花をなしてもさかすか花をうらむ

隣家花

同

しゆんを花かこつる花の中垣を浦のまも蝶をさかす

雅章云云

露中花

通村云云

露衣のまじり花のゆめつても花のうらむ花のまも

松間花

同

おのけゆく外心の糸と花の松のまも花のうらむ

花交松

雅章云云

枝をまじり花のまも花のまも花のまも花のまも

花留人

光彦云云

花をまじり花のまも花のまも花のまも花のまも

雅章云云

見えてゆく人花のまも花のまも花のまも花のまも

花妻友

通村云云

山里てこの一も花のまも花のまも花のまも花のまも

花為佳令媒

以賢云云

花のまも花のまも花のまも花のまも花のまも

風前花

雅章云云

よまけゆく花のまも花のまも花のまも花のまも

花随風

賢子云云

さきゆく花のまも花のまも花のまも花のまも

名不花

弘賢三長

花盛るまじくしるし白のまのすしるるる

惜花

新章三長

移り日短くもきくしるる花のこころ

花後

同

中の人花のゆくをいふとておのれも

花

通村三長

さきいへる花の多しをいふ枝も

新章三長

よすすくくしるる花のまの

花後

弘賢三長

とめくも夕顔すくくしるる花と

庭と花

同

凡かよし花のまのすくくしるる

花

光彦三長

桜もふ花もみしめてさくすく

花後

同

下氷の桜もみしる花のまの

水上花

弘賢三長

比水も花のまのすくくしるる

花後

通村三長

春もあけ花のまのすくくしるる

残花

通村三長

心り水も花のまのすくくしるる

古寺残花

通河^三兵

ちよかの橋を^まま^まとみる寺のまゝに松も花もひもけて

遊條

同

法師のやえとてのまふくのまに柳をゆきぬまの糸ひよ

遅日

通村^三兵

まをゆき^まの^まを^まとま^まて水手も日影や秋の木のま

通河^三兵

まを^まの^まの^まの^まを^まとま^まて水手も日影やまのまを^まの^まと

閑中日永

通河^三兵

まを^まの^まの^まの^まを^まとま^まて水手も日影やまのまを^まの^まと

摘草

同

風を^まの^まの^まの^まを^まとま^まて水手も日影やまのまを^まの^まと

苗代

同

遠く^まの^まの^まの^まを^まとま^まて水手も日影やまのまを^まの^まと

水色苗代

通河^三兵

まを^まの^まの^まの^まを^まとま^まて水手も日影やまのまを^まの^まと

蹴躑

通河^三兵

まを^まの^まの^まの^まを^まとま^まて水手も日影やまのまを^まの^まと

通河^三兵

まを^まの^まの^まの^まを^まとま^まて水手も日影やまのまを^まの^まと

折躑躅

通河^三兵

まを^まの^まの^まの^まを^まとま^まて水手も日影やまのまを^まの^まと

水色躑躅

通河^三兵

まを^まの^まの^まの^まを^まとま^まて水手も日影やまのまを^まの^まと

杜若

通符三長

頃夜の向ふ一灯の紫乃文とあはれしうまはしきいこれ
歌冬

通符三長

名残ゆきも梅とち原し木のもこたに空を白く山吹のこ
歌冬 花梅

目

下水も梅もつれて山梅もいへ花咲くは言ふは紫と
友

通符三長

は来の一平よきや松枝のこましくあめかたは梅もあは
友 花梅

目

春ぬきも梅とち原し頃夜の又雲もくは梅乃まの原
比 友

通符三長

春ぬきも梅とち原し頃夜の又雲もくは梅乃まの原
比 友

通符三長

比水のふりきけは頃夜の又雲もくは梅乃まの原
松上 友

通符三長

くも梅もつれて山梅もいへ花咲くは言ふは紫と
比 友

通符三長

船より入らとけりあらの磯り山梅もいへ花咲くは言ふは紫と
松上 友

通符三長

ふ代うけて老せぬ梅もつれの時とるをこもあはれしうまはしきいこれ
歌冬 花梅

通符三長

物もいへ花咲くは言ふは紫と
比 友

春夕

新章に
賀すに

春の夜もよみ花もあはれ
春の一夜の如き夕
比ふ所の梅の吹雪は
教もあはれ

春音

新章に
賀すに

梅の風吹あはれ
春の音もあはれ

春書

新章に
賀すに

今こそやちを
春の目もあはれ
梅もあはれ

春書

新章に
賀すに

ゆく春のこころ
古事よもあはれ

暮春惜花

新章に
賀すに

春のこころ
春の目もあはれ

春書

新章に
賀すに

ちよきよ
春の目もあはれ

春の仲雅壇
詩化をゆく

新章に
賀すに

春の目もあはれ
春の目もあはれ

首夏

通茂三

梅子の夜を暮らしてあふ草の影をよそひてはるけ

首夏納

光原三

春の夜の暮るうき橋をくちくちとせよぬはるを暮ら

山首夏

左原三

まじり夏の花のまじり花の影をよそひてはるけ

文交

石原三

おとほりてまじり卯月の影をよそひてはるけ

新樹殘花

光原三

新樹の影をよそひてはるけ

卯花

光彦の点

秋冬の西乾をせし目言ふをとりしるなりけり

山彦の点

枝と叶のみおちるもけりぬあふ舟の言ふをえりしる

雅章の点

しるべき夜は月も卯の花の言はるゝあふ小笠るう通次

夕卯花

通村の点

卯の花乃垣根は日と言ふまじりしる積山のこと

路卯花

菅子の点

里人や夜ぬくしる卯の花の言ふをえりしる小笠るう通次

庭卯花

通茂の点

さしつかへしる卯の花の言ふをえりしる庭の卯の花

離卯花

通村云光彦の点

卯の花のさしるはるしる卯の花の言ふをえりしる

郭云

雅章の点

むすねのぬきあはる郭云とけりしる卯の花の言ふをえりしる

山彦の点

六十餘をぬきあはるうとくしる卯の花の言ふをえりしる

待時鳥

同

まじりしるも卯の花の言ふをえりしる卯の花の言ふをえりしる

同

卯の花の言ふをえりしる卯の花の言ふをえりしる

初時鳥

光彦の点

時をまじりしる卯の花の言ふをえりしる卯の花の言ふをえりしる

同郭云

日

卯の花の言ふをえりしる卯の花の言ふをえりしる

人竹時考

新章の五

昔より人は人のうらやまをいばくせ我々の言をよん

郭云一考

荒原の五

二考よりおのけの柳子祝賀もや^{あつた}よふまらうたるは

る上考時考

雅章の五

おのの山も載てせきうせ郭云考する方とさぬふゆせく

山實の五

時考よりいかにあふふいゆく考ふ考ある馬も送らん

道章の五

郭云考よりいかにあふふいゆく考ふ考ある馬も送らん

雲間時考

山實の五

山の駕りあくるおのの山も載てせきうせ郭云考する方とさぬふゆせく

五後郭云

道章の五

あつたよゆあふの考ふ考して日もむひるあふあつた

日

村あつたよゆあふの考ふ考して日もむひるあふあつた

日

あつたよゆあふの考ふ考して日もむひるあふあつた

五月時考

通村の五

あつたよゆあふの考ふ考して日もむひるあふあつた

道章の五

あつたよゆあふの考ふ考して日もむひるあふあつた

同時考

通村の五

あつたよゆあふの考ふ考して日もむひるあふあつた

野郭云

新章の五

あつたよゆあふの考ふ考して日もむひるあふあつた

道章の五

あつたよゆあふの考ふ考して日もむひるあふあつた

市時多

山賀の丘

まはるく市の中ふも市人のゆゑをす山賀の丘

三軒中時多

通南の丘

村も驛はひいふをてねくや龍麻の山中

名取部云

山賀の丘

龍波松のせうひのまふ写於てふふり

時多禱

通村の丘

時多悲しひいふまゝて^五五月の来てうやま

早苗

日

けせしてんをのり苗取もす川穂の出る秋や

通南の丘

ゆるうる水せき入ては穂の秋もふり

みちねく玉川

山賀の丘

玉川や水せきかけては女子うき田

般若城の早苗

通南の丘

戦は女うらみ子田奇はまもみちね

早苗多

山賀の丘

まの秋のちき日くしはけも田のま苗

民戸早苗

山賀の丘

女子うきしはせこれあまも田のちい

牡丹

山賀の丘

名もあまも白しもゆみ草ふりて花

般若城の早苗

通村の点

事よとてや一室もかへりて 居候ふらふちをきてらむらひん

栞

山吹の点

山吹はふふとてしむらひの香ふこそ白くあつらふちを

夜廬栞

石段の点

つらふまの昔ふらふらふ夜ふちもちのうらむはくふ

秋草の点

あう穂こらふむじも玉の日のけり方ふちあふちを

丑月面

同

言物にややとほちてまにぬし月のあふちのうらむのころ

通村の点

さみし穂のけりも人のほしもやあふちの穂ふちのうらむのころ

秋又月面

山吹の点

日とや穂こらふし穂あはれしやあふちの穂あふちのうらむのころ

河又月面

通村の点

ちよ哉日初穂の栞原まをちて古川せきまは又月面のけ

室又月面

山吹の点

さみし穂は日較穂あふちふれあふちの穂つ文科は室

夏月

後水尾院勅旨
山吹の点

名場やと海音は石の葉の名のけりみる月うらむるみる

山吹の点

まはれ月のうけあふち君の穂ふ涼しくあふちのうらむのころ

夏月

元禄の点

天川八十はちきいふ月うけあふちてまやまにちちのうらむのころ

夏月涼

通村の点

月もれ西にせれとるほふちのうらむのころ

浦夏目

秋章の点

海士人比波のけ敷帳のまじり月やと波はも夏乃の夜もせ

名不夏目

秋章の点

けしてあふ浦のまじり月やと波はも夏乃の夜もせ

夏州

通村の点

我ながらやみくものあふ折あしきいさもいしりふさげの夏州

雪夏草

通村の点
先房の在夏草

白雪はさきかき雪色のかもしけもほいあもきて前も夏草
雪乃のちおいたる馬ふほりせし夏草のまふちや送る

鴉川

秋章の点

夕風ふ鴉川のむも大井川このむかのまのちを大乃のけ

雪

秋章の点

比水の雪深かすくまうもいんきて雪の新をみいけ

水色雪

通村の点

深あすきぬおまの雪もは水も我うもゆるまじりせみる

蓋雪

秋章の点

秋すいぬ雪うもいんきて夏草のさげふさげくお雪くれ

日

秋為さける雪の吹くせふ光みり流ておわらふはう草

雪大秋近

秋章の点

秋のせのくま川原の波の上も雪けりてあわらるるれ

夕照

秋章の点

夕風ふ遠方人のまの雪とみまはらうるあゆみ教るるか

山崎

山崎はつとくしとては中絶を憂へともあけぬゆゑ難なるを
はる幸ふそ地と遠と

通村

このあつたはたのちの程もよの比のちかふは白くは
夕立

山崎

日影はまにぬく^かて^ては^て本^は花^は所^はゆ^はむ^はの^はあ^はみ^はゆ^はる^は夕^は立^は
夕立

通村

生駒のまゝなるをよとて種も新はまに色^はのゆ^はあ^はち^はた^はえ
あせ夕立

山崎

大石のまに晴^はる^はぬ^は神^はや^はま^はあ^はら^はは^は夕^は立^はあ^はせ^は
遠夕立

山崎

しるしや^はあ^はら^はる^はる^はあ^はら^はる^は神^はの^はあ^はら^はる^はあ^はら^はる^は夕^は立^はあ^はせ^は
河夕立

通村

あせ夕立
浦夕立

山崎

清原のまに^はあ^はら^はる^はて^は浦^はの^はあ^はら^はる^は夕^は立^はの^はあ^はら^はる^は
輝

山崎

あせ夕立
あせ夕立

山崎

あせ夕立
あせ夕立

山崎

あせ夕立
あせ夕立

山崎

あせ夕立
あせ夕立

府

江波の丘
よふあゝと庭のうせふちをよふす
うたゝの床の月うをかしめていゝ
うたゝの床の月うをかしめていゝ
うたゝの床の月うをかしめていゝ

夏府

秋の丘
あゝと庭のうせふちをよふす
うたゝの床の月うをかしめていゝ

高尾秋夜

通尾の丘
あゝと庭のうせふちをよふす
うたゝの床の月うをかしめていゝ

河原

秋の丘
あゝと庭のうせふちをよふす
うたゝの床の月うをかしめていゝ

夕河原

通尾の丘
あゝと庭のうせふちをよふす
うたゝの床の月うをかしめていゝ

日下河原

江波の丘
あゝと庭のうせふちをよふす
うたゝの床の月うをかしめていゝ

松下河原

後水尾院初点
あゝと庭のうせふちをよふす
うたゝの床の月うをかしめていゝ

松下晩涼

江波の丘
あゝと庭のうせふちをよふす
うたゝの床の月うをかしめていゝ

日
あゝと庭のうせふちをよふす
うたゝの床の月うをかしめていゝ

日
あゝと庭のうせふちをよふす
うたゝの床の月うをかしめていゝ

日
あゝと庭のうせふちをよふす
うたゝの床の月うをかしめていゝ

石下河原

通賢字長 消くする草のうせふ枝垂る古河は波色は蒼を添くす
石見林道

山登賢字長 面く林乃とくくとりせく登りきふ通くもすし庭の松を
夏星

同 かほをまゝ草乃うせふ吹むふうこぬ星の影をすしけ
夏風

新章字長 海への門のじを添くす昔竹の葉もふを添く日乃はよ風
夏雲

日 露の積のこのもかのも此深きやみちの河原の夕あちの光
夏雨

同 夢いりも世ふは林ふその林ももぬ折てあまよこくもれ光
夏露

同 系わく荒れし先うし賑ゆきの葉もを添くこくもれ光
夏夜

後水庵院初長 うたゝ新の短手折半は葉のゆふ遠きむく始行くらん
夏庭

山登賢字長 植わくもくもる庭のほせのゆふしんあちの麻葉の葉
夏川

新章字長 卯の葉のちをてうく川波は葉のきけふくるとふくは
夏水

通賢字長 添くはもれく水のみから荒れ地のうちあふあちの音うか

夏海

新章の夏

海土れあや夏の海をふきしけて夏の形をくしりて花見

夏田

同点

わかしや夏里人もい何田ふららるたてんも苗くはらん

夏歌

同慶天

夏ゆくとあやし夏ふ心解はらけきやとけく梢あらしき

山家夏

山家夏

壺とろくくあけしやあけのふんさじかにうま山部云

夏歌

新章の夏

夏あらし送るぬらと夏草のさけけくもささふ物やあらしん

夏歌

同慶天

たしきあふかす初ぬらやもかあけあらしんくくみあ月の光

夏歌

同点

新てもる月ゆわてあすの光満くて涼し神乃あしを

夏舟

同

夕涼の浪分夜神くけてああさみい海く多由涼くを舟

夏香

同

瑞乃りり色とらくもほろろたてあらしちせ白くくく

夏歌

通前

旅衣をき師の原く夏の日のあふ孫くきい夏土の根あし

夏雑物

同

いふてぬるあけあしん物ふみくも夏とらあしこめん

夏山滴羽幸と云詩は詠ま

通南江点

この秋帝もさるかやあつ山乃栢は若葉ふぬくさう^{あふ}車
新樹勝花とらり詠して人々詩能^あけり

同

伊治いれは若葉ふぬくさるかやあつ山乃栢は若葉ふぬくさう^{あふ}車

右京大文義恭家集 三
秋

立秋朔

弘賢江点

秋多ちてけさ行く旅もまうきつる内外の風の名とやみま

初秋

光原江点

通南江点

うやふしうとまやとしんまはし毎年の愛う秋うさつせ
吹かしてけさう秋ふあしまうあしんまふ分の風とやみま

初秋月

後水尾院初点
賀慶江点

思えんさ秋の秋もさる秋乃山台さるさ夕月あうれ

早秋

後水尾院初点
通南江点
賀慶江点

今秋よとあつこの川も名のこして山を^{うけ}添へ秋のさる風

七夕

通舟云云

天の川水のおうけりて或はち流しとせ申すも星のしはれ

雅章云云

名うし物とて七船の渡の川水ふよひてうせ星合ふ元

陸奥のゆるに同しを

通舟云云

けゆ少魚さるるをなせ七夕のりゆり川の禱のゆせふ

七夕橋

雅章云云

神をくまき少ふ物きて流せらせ天の川流の天のうき橋

同

天の川にし星といやとふ出て流る橋の名をかくはれ

七月七日はあまをけるふ七夕は橋のし事と

同

たか橋はゆせふあまをきてもみちれ橋をれやまひん

段石橋 諸侯の橋をて七夕あまをけるふ七夕橋を

公賢云云

今よりうるあまや星のりし事は流津の橋のまひりて

七夕馬

同

ぶくくこふ星をうけるもゆはれあまをけるやしめても

萩風

同

表はあのみえし田はをて萩のきうせて秋も来り秋

笠言萩

雅章云云

あまをくむ物をかちうき玉の原春もふせり萩の上を

萩萩

通舟云云

うを衣すせはれと分てぬ物かちてをてうてふはを

通舟云云

まみきつむ神とをもあ紫乃りあまはゆやとてうては指

雅章云云

分て整はれぬ物かちてをてうてふはを

同

いそくは物かちてをてうてふはを

聖秋

山簀草

あきもあけはるもあはれなる秋の草葉をまへて聖人此秋を

女席草

同

あきもあはるもあはれなる秋の草葉をまへて聖人此秋を

聖草

山簀草

あきもあはるもあはれなる秋の草葉をまへて聖人此秋を

聖草

山簀草

あきもあはるもあはれなる秋の草葉をまへて聖人此秋を

聖草

山簀草

あきもあはるもあはれなる秋の草葉をまへて聖人此秋を

山簀草

あきもあはるもあはれなる秋の草葉をまへて聖人此秋を

槿

山簀草

あきもあはるもあはれなる秋の草葉をまへて聖人此秋を

同

あきもあはるもあはれなる秋の草葉をまへて聖人此秋を

聖草

山簀草

あきもあはるもあはれなる秋の草葉をまへて聖人此秋を

夕虫

同

あきもあはるもあはれなる秋の草葉をまへて聖人此秋を

聖草

山簀草

あきもあはるもあはれなる秋の草葉をまへて聖人此秋を

山簀草

あきもあはるもあはれなる秋の草葉をまへて聖人此秋を

夜原

通村公貞

山深き友とやけしむる秋の物ふちるく小胃麻の夢

山賢公貞

小胃麻も水やほすけしむる秋の物ふちるく小胃麻の夢

同

夢やうきりし事なして行来のくもく水毎小胃麻とくし

日前麻

通村公貞

水麻や木の間の日の影ふれらけしむる秋の物ふちるく小胃麻の夢

日前す麻

賢公貞

はくしむる秋の物ふちるく小胃麻の夢

菅山麻

通村公貞

とくしむる秋の物ふちるく小胃麻の夢

秋眺望

山賢公貞

阿市母の妻に水送く山子に秋の物ふちるく小胃麻の夢

水外秋望

通村公貞

新居公のうきりし事なして行来のくもく水毎小胃麻とくし

水御秋望

同

泳池ぬいけくして水送く山子に秋の物ふちるく小胃麻の夢

秋夕

山賢公貞

葉の上は秋の物ふちるく小胃麻の夢

同

葉の底に秋の物ふちるく小胃麻の夢

山賢公貞

阿市母の妻に水送く山子に秋の物ふちるく小胃麻の夢

秋夕思

山賢公貞

何となくく小胃麻の夢

秋田

通村の丘

吹拂ふ山田乃とて一鉢折のし月かたぬくせもあて有る

通村の丘

八月穂の輪くる民のうらやも年ゆいりある秋やうけしき

弘智の丘

花そのわたりも折折ふ秋の田の穂くる面くはしりて花うれ

日

龍章の丘

あまのこころも日影のきふあじぬ夜のはひ

竹日

通村の丘

山のこころもい出ぬてはわくのぬる日のけをうけし

八月十五夜

光原の丘

あまのぬきまにありてはまのあまの月とてきふ何のぼん

龍章の丘

あまのぬきまの日の光とてわくは秋のこころや風をうら

龍章の丘

あまのぬきまの日の光とてわくは秋のこころや風をうら

八月十五夜祝日

龍章の丘

あまのぬきまの日の光とてわくは秋のこころや風をうら

龍章の丘

通村の丘

あまのぬきまの日の光とてわくは秋のこころや風をうら

八月十五夜祝日

弘智の丘

あまのぬきまの日の光とてわくは秋のこころや風をうら

五後日

日忌

吹拂ふ山田乃とて一鉢折のし月かたぬくせもあて有る

松岡月

同慶の丘

あまのぬきまの日の光とてわくは秋のこころや風をうら

松岡月

山資三郎

まき色は糸は幾い名のこしし木の筒をくむ月をけき

翌日

所考してはたし御せうやのちとてし

同

秋の月日吹くはらつまのまゆをさすおあちうのまを

後水庵院初点

まゆ所きい悪は流ふむらけくまをみま日と名して

通村云点

分ゆけとむくのま枝のまふくまのまを流る月を

野徑月

資三郎点

月かしく乱るる房のま村ふ分く流るまをくくかのい

福崎加賀寺並徳院月は今も岡月と

山資三郎

いくこよのまをのわふかくせもかぶしてまをる日のまを

石並徳永邑肥別岡とこ子花の堂上月と

まあふ初進と

丘月

通村云点

神とちせくろまむし玉屏のくまの月くあまのまをく

丘上月

山資三郎

秋は月まみそくそく荒あまをに水ぬくくふはくまをく

河月

同

むじく日ふはくせく林のまがつかてあまは流る川ぬか

通村云点

面をふまをうくして橋川をくまのまをくまを流る月を

山資三郎

みかしの川をくわけき流は枯のまをを流る在月を

通村云点

山川の岩間かをせく流てしをけりつすくまをくまを

山資三郎

流るまをくまを流る川の毎ふ日とせしはくくまをくま

海月

通村の巻

伊勢の海や清き満のまをりて玉もすめる月夜
垣うせふまをりて沖の海や鳥せりる鳥も清き月夜

海を月

道見法親王
御執事次
御小入御
とありたり

垣あけの海社阿波みりめれよをるみてる月のまをり
うばいそを首をりて海奥の月の夜は垣うせり
勝るけしやい秋の又庭の浦うはまききやけし

湖を月

後水尾院初

垣あけの海社阿波みりめれよをるみてる月のまをり
うばいそを首をりて海奥の月の夜は垣うせり

浦を月

通村の巻

勝るけしやい秋の又庭の浦うはまききやけし
浦あけの海社阿波みりめれよをるみてる月のまをり

資平の巻

うら垣あけの海社阿波みりめれよをるみてる月のまをり

光彦の巻

ゆねの海に上る清のまをりてはるまをりて月をかりて
故の月

通村の巻

阿波の海に上る清のまをりてはるまをりて月をかりて
山家月

弘資の巻

無さうの海に上る清のまをりてはるまをりて月をかりて
山家月

山家月

資平の巻

おのまをりてはるまをりて月をかりて
おのまをりてはるまをりて月をかりて

同

資子江良

やう人もくろくはてくる葉は落ふよくれぬ友し月を社えん

惜月

新章江良

待月よのちろつううまよか人止のこころし日し

九月十三夜

江良江良

けは乃とくはやまめて秋のふふ日のうらうらこころ照也

月前夢也

資子江良

凡吹も世へ乃千燈はかこいよをみりはあひある露の月け

月前竹風

同

はるきよつゆこころをて日影の言さきあしく竹るちよを

月前鐘

通好江良

夕くはてすはてしなくはる日さしつゆ物あをぬ

日前眺望

同

夕面も乃酒を液間かぬえそて日ふ消ゆく海王はく色

旅宿日

同

多し松く糸の糸を引はるも一お別ある日とて

名取日

江良江良

秋にうを秋こいつくも月をまじよの史料にまねて

同

よきうはぬを世にはるるむの心本をけり日影の星王の板

固く離海崎丹々山々雲衢

通好江良

よつこのら折をかしはるる心よまよとて月の中

初夜

江良江良

う折を実多う玉章を水茎の星とてるる心よまよ

光彦三良

秋の夜の月をよみはるるをて山のこゝゆるるるをのぞ

日希乃

通村三良

秋のせとえふ草やつるはらんぬのをぬ日ふくをせむる

秀中乃

弘賢三良

あゝあゝ秋の夜もさうしー夕ぐ巻る音の月をる初なる夕

田上乃

雅章三良

ささゆいり海もむ枯て秋乃田乃稲葉のせふ落るるを

唯 秀

通村三良

まこと免てあふしーくんる音の月ふ夕海もるりー急を吹ゆく

関 秀

弘賢三良

きのきとすて乃のちも関のをすいあふしーくく枯ぬ秋乃

湖上唯秀

資玄三良

けいげやあてる海とま^あら免て秀よりとよふり色白乃月

栲 衣

弘賢三良

行糸のよはく衣を折りうけ春にぬぬを秋にあしーうあしふ

磐城縮谷此里少て同じんを

通村三良

おしもりれ磐城の山乃秋風小縮谷此里もちるもろつ夢

夜栲衣

通村三良

今あせやちきりぬれせも七月乃ばき付してー夜歩あ里

夕 袴

通村三良

清芽こくけぬ散く袴^のあきうせふきもみり袴て袴^のあし

豊 袴

以實心点

酒を若使と令獨初進玉律時信樂秋也と

以心也物ノ意ハ神ヲ終テ云々云々

同信樂ハ秋後

同

秋の自此初也云々

河上菅林

通村心点

菟波根や秋の月夜もみちの川に雲の國ハ云々

九月云々

通村心点

かゝ衣裾也云々

左京大史義泰家集 四

初々

通村心点

長果也云々

同

山本の物也云々

通村心点
實慶云

神を月今物也云々

初々物

通村心点

をきぬけ云々

初々花

通村心点

外山吹花云々

海色也云々

通村心点

神を月云々

時多

山賢心点
後水尾院勅点
通符心点

花乃くもかいらくもほし 河のあもあつて時多ふも清ゆをうか
まろく又有り月の行方ともあふゆるてあつ時多うか

初時多

山賢心点

ちやうとして名ふあり雲のゆけあまらくもあも度せうか
後時多

山賢心点

雲の後もつきやぬ月のかほをえて國一あぢふもあつちり
清き後葉

通符心点

山多うも馬きあひあつたの糸もあふもあつちりもみちうか
河上後葉

山賢心点

山川の岩根ふよもむもあぢあつちりもあつちりもあつちりも
初時多

山賢心点

有り此月の光も強もくも初もくもあつちりもあつちりもあつちりも
葉霜

山賢心点

くも秋もくも糖の後の一もやあつちりもあつちりもあつちりも
木枯

山賢心点

夜霜も強もくもあつちりもあつちりもあつちりもあつちりも
寒叶

山賢心点

初時多くもあつちりもあつちりもあつちりもあつちりもあつちりも
山吹葉

山賢心点

色もあつちりもあつちりもあつちりもあつちりもあつちりも
秋のあつちりもあつちりもあつちりもあつちりもあつちりも

山賢心点

資子江

冬舟積つる秋のまなねきり積つてふものこもせふ舟あし

氷初結

資子江

通村江

さゆる水の初もちも氷らんねみきり山にりり
日の光らうらぬまーとちく氷のよみゆてやえ氷らん

井氷

後水尾院和江
通村江
資子江

旅人出宿り海や山の井の雨すいりあふこもー氷らんぬ

夕日

通村江

同

んー秋の夕日光とまてりりきふて海も山にりりはき
冬折ぬ月の桂やあゆしゆーもまゆあしりしせせせせせせ

千鳥

飛鳥江
資子江

静けも時おうーよあーいふあのかちまてるよきりか

江原江

垣角小多し岩積とこよりまは磯の波分多りよきりか

喰ふ鳥

同

有角の日ふりこもり川よきはこぬるおまよぬぬくし

夕鳥

通村江

ねーもられ月の浦の夕言ふ波とまてりりきりぬくし

川よき

江原江

かぬふり手いさほの河原の川せのきりもふり積つてゆくよきりか

水鳥

江原江

ふりひきて敷きりかち比水の境ふりりる死きり一は積

雨散

通村江

けくばるきり水きてけり積のね一本のぬるけり積りか

通村云云

冬栢の新とれ葉ふ并ちさしてその子のみ結ぶる河結ぶか

雪霰

通村云云

つ結ぶくして冬雪ふ浅くは條のさとうちちるこくまふ霰か

冬雪霰

通村云云
資慶云

栢とゆく目難し言ふからうして雪風とつても霰あふ

橋上霰

通村云云

河結ぶと結ぶ河は橋の上より結ぶ雪をよす

雪

通村云云
資慶云

雪をよす言は物と較ぶる及や栢の目も人をほくゆ

初雪

通村云云

奥山ふ結ぶ人の心をよすは雪のさう雪

通村云云
資慶云

雪をよすしていづこもみんまのさう雪のさう雪

通村云云

冬うれぬおのさちもは雪のさう雪や白くは雪のめを

雪

通村云云

結ぶの雪の栢の雪のさう雪のさう雪のさう雪

通村云云

いつとて雪の及日結ぶ雪のさう雪のさう雪

同

けはと結ぶつと結ぶ日結ぶ雪のさう雪のさう雪

雪

日

さう雪の栢の雪のさう雪のさう雪のさう雪

日

けはと結ぶつと結ぶ日結ぶ雪のさう雪のさう雪

積雪

通村云云

雪の原やみちの雪ふ雪のさう雪のさう雪

通好の長

資の長

月前書

同

雪似白雲

同

同

言似花

通好の長

曉言

資の長

山書

雅章の長

以賢の長

通好の長

同

山相書

同

以范七十賀初進遠山書

以賢の長

同

山家書

雪も山もこころをなすむきめぬの里ありては枝の春

深き雪も山の下ないうちのせつしつらうらうらと白雲

月前書
月よりして夜はあつちの庭のあふくをひききる月影

雪似白雲
雪ももちき花のほつり言のこころをてしつらうらうらと

言似花
うらうらのこころをみえてや枝のせつしつらうらうらと

通好の長
糸様はくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

資の長
言は聞くとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

雅章の長
山のこやいつこちもくくくくくくくくくくくくくくくくく

以賢の長
秋もけしき花の葉もくくくくくくくくくくくくくくくくく

通好の長
朝もくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

同
桜もくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

山相書
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

以范七十賀初進遠山書
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

以賢の長
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

同
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

五社書簡寄尾尾末一云云云々又近世百人一首出
言の奇なり
三つせり入初のうねりうねり尾のうねりうねり

通賢の長

花ふさしい日おほく終り山くけのどちて歳日と云は下夜

野雪

新季の長

そく終の秋のさる枝もさるゆきをか吹くさふ城は原

賀正の長

あまつもの雪の物多いさあまの年と云えぬ本前の原

通賢の長

さみ終はし小秋のけちちちちち終の雪をせね多し

野雪

道元親王
新季の長

白妙おんえし尾巻の袖あして言ふちちちちち終の雪を

通賢の長

あまの雪はさる枝もさるゆきをか吹くさふ城は原

通賢の長

あまの雪はさる枝もさるゆきをか吹くさふ城は原

賀正の長

あまの雪はさる枝もさるゆきをか吹くさふ城は原

通賢の長

あまの雪はさる枝もさるゆきをか吹くさふ城は原

水上雪

賀正の長

あまの雪はさる枝もさるゆきをか吹くさふ城は原

河上雪

通賢の長

あまの雪はさる枝もさるゆきをか吹くさふ城は原

白雪

通賢の長

あまの雪はさる枝もさるゆきをか吹くさふ城は原

雪

後水尾院勅
賀正の長

あまの雪はさる枝もさるゆきをか吹くさふ城は原

通賢の長

あまの雪はさる枝もさるゆきをか吹くさふ城は原

雪

賀正の長

あまの雪はさる枝もさるゆきをか吹くさふ城は原

竹を

資平は長
山資平は長

と物らん竹と埋り続て西窓の竹ふすつさるき乃下お
くれ竹の雪のふくくすとさい懐てふふまふまふしききききき

松を

雅章は長

阿れくはぬ白いもさくぬねう枝の雪ていうる花は梅うも

白かー枝もはきふけ物多ふ山のまうてきふあひかて

山資平は長

言中一ん松

山資平は長

白波のうせり梅と雪のうさるんゆもやゆも乃かき待れ松

松を

通村は長

目と物ばらる川のくお雪の田ふふふふふふふふふふふふ

依を待人

資平は長
雅章は長

花は春日の林とさるんもさくくくくくくくくくくくく

坂富士為馬言のりーあはくをてん糸さけふ

今朝はまじきの何は春らふくくくくくくくくくくくく

ふくまいんとく中をきれき

山資平は長

さくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

旅行を

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

旅宿を

山資平は長

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

名取を

雅章は長

けあくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

資子に云

資子に云

仲つね改いふふんをてこゆるまの破か吹く言乃浦うせ
けはのきのみを月を伊勢山を家の林のともも忘れし
相良をいふ申寛命の鷹狩と

日

因

因

炭竈

村人やとあちやちゆくたうは庵あはふけり此の原
くしあはみくらの海にまゆる神とち折五郎のきうれ
くしあはみくらの海にまゆる神とち折五郎のきうれ
くしあはみくらの海にまゆる神とち折五郎のきうれ
小野山や哉をみか海に埋めてきき燈の役同あける
深水埋火

資子に云

冬

雅幸に云

冬

痛雪はゆふ一はゆふはてきとを寝るはねを名ふりき
年定まのきうしとては折あは白ひや清きうの折あはるん
歳暮

資子に云

資子の慶賀

雅幸に云

資子に云

日

山菜善燭

またまはやけいふ日白く梅をきて言新年はあはゆふのき
いしつふふ言り幸て酒を焼むくまの折もくうし
水のあふ所授せし日とうま折を年あはるを又言ふける
長秋の折は月よやちをきて言むつ折を年のく折あは
はははねく一日くと秋の門ははるあはるく年のきうれ
山菜善燭
年くもてはれはゆふあはるくまをいしはあたまのやんせん

資子に云

山嵐言

山嵐言

山嵐言
早梅

日

昔ぬるまじ年とし梅は
昔ぬるまじ年とし梅は
早梅

通茂言

梅はこゝろ梅はこゝろ梅は
梅はこゝろ梅はこゝろ梅は

山嵐言

山嵐言
初意

初意
初意

通村言

通村言
初意

山嵐言

山嵐言
初意

道尾言

道尾言
初意

山嵐言

山嵐言
初意

通村言

通村言
初意

折云 忌

神垣の枝と云ふ一ふ葉をぬきとちりし申すももくもくは
ゆふたはまきしけしちりしものも一形一色目もふふふは神枝
色不過也

寄会一ゆきけふ同云と
宿はらるゑなうらふ事と又もあはれはさの我がもくし

同 刈刈とつちけ物おいとこれ一其状お似あるるはまよひうれ
刈忌

元暦の慶天 けうふくふ我をさごとをさして社刈る積あうつする麻
通ねる忌 移りくを神の刈まは形こしてけうふくをさうしてせゆを
いざり忌 さいくは神しきりてその言こしきるは麻をさすの我はは

歎石 忌

此章の忌 多きうねの切ふし一し世路の浮名とすり夕く日乃るを
初おけりせうりして未垢忌

通ねる忌 信し初し三井の清水の末流お近江の海とせくたをせうか
晴風 忌

同 けさるせし海ある木のまを何ゆえとせぬやううけり
遠所 忌

通ねる忌 ちりせもやうじりるふこゆるは破の海さけりしうらを
恨 忌

いざり忌 こそかお移るふのさげ一ちや恨てくあふさう山う勢
夏 忌

通村云云

時をさかしくし言はさるるをいひしりかふらうか村のさ

意夕

同

中しやうたあいのさの夕降あまのさあ言もあふあ

愛申意

は賢云云

いふあれを^{つれあし}福あ人もあけてあかしくあふらふことゆらん

非幸云云
賢云云

この世あともいふいふも滅あきあまよしいあふあふらふらん

漏意

通茂云云

物あともあふくあふの中あをあふてあひし思あふらふけさ

通心意

同

海のとよしあふらふもあひあふらふあふらふせ海を境小

海意

通村云云

あふあふあふしとあふは海をいふあめあふらふらふ

あ日意

非幸云云

今あふあふあの中あ林の目あ短あああああああ

同

うあ中ああああああああああああああああああああああ

あ月意

光原云云

ああああああああああああああああああああああああああ

通村云云

ああああああああああああああああああああああああああ

は賢云云

ああああああああああああああああああああああああああ

あ星意

非幸云云
賢云云

ううああああああああああああああああああああああああああ

あ病意

通村云云

稀ふ阿子居まふ名残とて先垂てと鉤に你し蓮生の病

寄雨云云

社章云云

さくさくせし其書毎ふさしあけて笑ふぬおまめつしきあが

山登り云云

ゆらゆらいぬまてん居てん袖あけたりきくしを宵の村毎

寄瑞云云

社章云云

うす深てつしき笑は中川やあしたあもみぬ暮のうすし橋

寄園云云

通村云云

恨多しうもさぬ中の玉章もうす深みけらこし一の園を

山登り云云

行ふよき道路もあえてよかしくかうそ旅の笑もあやあし

寄原云云

通村云云

小笠原原と消えしつらてし恨のあやふふわくらん

山登り云云

お月出ー名残らん送る行雲の何一あめあそ月をよまこし

寄水云云

通村云云

酒をふる人こそあつ統年あても山下水のたえぬまじと

寄海云云

山登り云云

身を海の周かししをさしそふ樹も今をうらぬおそあき

寄河云云

道見歌云云

ふうふう河やそん生田にうらむるまのうすまじしあそ

寄石云云

道見山登り云云

うらむあき人か思ひの欄もあし千川の石も川をくくろく

寄山岩云云

回兵

入初てふのたかくはらうしあま急る山路も山岩はうけら

奇巖恋

山賢恋

あしはる海にゆきしる例あらしもなほも矢乃ちちけるおと
奇秋田恋

同

俄のゆる門田乃庵のいぢむしちまゝのひても人をまゝいぢ
奇早恋

同

あふてたぐおとよあふぢし思ひのまも今いまも
奇夏恋

通有恋

あけ初てあししりくも交まはるけすはあふち恋るはが
奇思恋

此章の
資まに
奇恋

うき中ふ様四時初し思慕いつは秋秋ふらう結んさよこん
奇を恋恋

通有恋

うき中をきぢのま言切結をてく恨ん風の便とあふあし
奇舟恋

光彦恋

あうぬ人れんの難つれぢふは竹のくひあふるしち結うか
奇松恋

日

あしはよ使あつけて風をまをねのうらとをむぢもあ
奇木恋

山賢恋

あしやかしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし
散うせぬねと笑しし云のあもねのうらとをむぢもあ

通有恋

奇花恋

通有恋

あしはよ花とうきあしあしあしあしあしあしあしあしあしあしあし
奇花恋

船幸の志

川流ゆく船ふるん魂まてふの笑も聞かざるさけりぬの光
あまの志

同

つれづれの光しるもつれづれの人のこころもあかづつ子
あまの志

通村の志

水もたぎふたてつる中じよも川の底のうまに祈あそい
あまの志

同

あまの志

通村の志

あまの志

通村の志

あまの志

通村の志

あまの志

通村の志

あまの志

通村の志

あまの志

通村の志

あまの志

通村の志

あまの志

雜

天象

通賢以長

天降之世吹海くまふ女子かたけし玉くみく終みく尚く

暎のそ

以賢以長

老もまふ葉あちて明わのくまも笑こすむけしけ原

遠の糖

同

望遠を若くしう孫て信濃路やち子肉あそめも糖まふん中

地産糖

通賢以長

唐館をくち子色の葉も信濃路かくとみゆる原々の南風

函夕

以賢以長

らん姑のこちをけ風をまもりく故のきゆ^ナく終乃や

野亭

同 ひとりゆく河野亭のむらさき色もよそよそしくもなほとよけの雲霞かかるとも

河水流清

同 雲あそびをうけて行川の水のみもよそよそしくもなほとよけの雲霞

晴後遠水

同 舟白山麓のこぼれて空谷川のちうけの東ふくけりて

山影写水

同 山もろみ影ふせうれぬ桂麓川ちうけ極はうけりて

遠山如畫圖

同 遠山はもろふ程の如の墨うきりて舟や遠路の山

山中遊

同 山ふりて松の如くはるかにありて舟の如くはるかにありて

海路

同 舟の如くはるかにありて舟の如くはるかにありて

同 舟の如くはるかにありて舟の如くはるかにありて

海村

同 海村の如くはるかにありて舟の如くはるかにありて

湖上

同 波あつて舟の如くはるかにありて舟の如くはるかにありて

名不湖

同 舟の如くはるかにありて舟の如くはるかにありて

浦

舟の如くはるかにありて舟の如くはるかにありて

通有字

夏草ふらば一とひんばくはよあしみちらふとる塔の浦

名不備

同

和歌の浦やまは玉藻の浦とる洞の庵の浦らんじりし

同

いづれ夫の浦とるの浦とる名とるてまふちこしる秋の夕暮

演砂

同

白砂のそのあを浦とるせふつとるあつとる由るあつとる代

漆液

同

うきとつと毎とせう初て漆とるあつとるあつとるあつとるあつとる

伴石

同

改めあつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとる

后新

通有字

あつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとる

板

通有字

あつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとる

同

あつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとる

同新

同

あつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとる

心釋近歩

同

あつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとる

對鏡知身光

同

あつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとるあつとる

哥翰のころと

山家集

山に雲を吹くをかくし 庭の木の影に花は移る和音の浦へせ

夕照歌

同

昔より山に九折あり山原のまをては音のちりきり 急うか

蕭索村に吹笛度

通夜

あを巻のうしりく 追をせお草を笛の音をききあし

揚き祀

同

物とてし 枝うを吹く 雲をくしむ 山に音のあし

栴檀色に待遊

山家集

花の春日のうらぎをききと 山に花のさる 舟うららん

雲松

通夜

あまのうら 神とてし 花を吹く 山に音のあし

雲松

同

千枝のうら 花を吹く 山に音のあし

山家

後水尾院 和点 山家集

うら乃をて 山に音のあし 山に音のあし

雲松

山家集

あまのうら 花を吹く 山に音のあし

同

あまのうら 花を吹く 山に音のあし

山家

山家集

あまのうら 花を吹く 山に音のあし

同

あまのうら 花を吹く 山に音のあし

山家集

あまのうら 花を吹く 山に音のあし

山家詩

山家詩 山家詩 山家詩 山家詩 山家詩

山家詩

山家詩 山家詩 山家詩 山家詩 山家詩

山家詩

山家詩 山家詩 山家詩 山家詩 山家詩

山家詩

山家詩

山家詩 山家詩 山家詩 山家詩 山家詩

山家詩

山家詩

山家詩 山家詩 山家詩 山家詩 山家詩

山家詩

山家詩

山家詩 山家詩 山家詩 山家詩 山家詩

山家詩

山家詩

山家詩 山家詩 山家詩 山家詩 山家詩

山家詩

山家詩

山家詩 山家詩 山家詩 山家詩 山家詩

山家詩

山家詩

山家詩 山家詩 山家詩 山家詩 山家詩

山家詩

山家詩

山家詩 山家詩 山家詩 山家詩 山家詩

山家詩

山家詩

山家詩 山家詩 山家詩 山家詩 山家詩

山家詩

山家詩

山家詩 山家詩 山家詩 山家詩 山家詩

山家詩

同

木くろ荒ふ哉世かた秘してしき苔のふせふ海向き岩のうけを

塚井

山簀苧

庭の草ふ一や一河井や若井の思事いづれはせあし縁も

高竹

通舟草

いぢ一のうーも人の海もめてすくむと急な海ぬき舟

山簀苧

まら申ねる心の友と植わくも庭ぬき一はぬのき舟

同

ふふふふふふその一や一とらぬを植ていふ事いづれはせあし縁も

松井

通舟草

哉まふかや一海ぬき舟の思事いづれはせあし縁も

高暮松凡

山簀苧

夕暮と河井ぬき岩のうけの思事いづれはせあし縁も

浦松

山簀苧

白妙のまら妙はふらうとて縁もはくうとらうと

翠松遠家

同

陰る事いづれはせあし縁もはくうとらうと

桐

同

初風や若吹ぬき舟とて桐つばの一世ふ思事いづれはせあし縁も

言林鳥宿

同

言ぬ枝も枝のまもくうも枝と縁もはくうとらうと

浦松

同

お舟の浦も年ぬきすめら老の房もよとらうと

鴨 鶺鴒

非筆之長

ふりやあまのゆめとつきて星毎ふあまの秘をのまわすらす

閑鷗

山實之長

閑のたてゆめゆめてさすたるふあまのしらけをさすく

路考

日

山のところをほふそいふ道てふそとたさする程を思えぬは

江馬落考

日

たう程にうまふし程はくあまのさすくあまのゆめとこそそはれ

集

直實之長

物さすくし程ある程はあまのゆめとこそそはれ

山實之長

けふれたもの程さすくし山をぬこさする言はあまのゆめとこそそはれ

虎

同

つくさるにまのそけいさくあまのゆめとこそそはれ

橋

直實之長

人のあまのゆめとこそそはれ

山嶺林橋呼

山實之長

風吹林のころとあまのゆめとこそそはれ

直實之長

むらたの橋あまのゆめとこそそはれ

深奥

山實之長

あまのゆめとこそそはれ

繪

同上之長

あまのゆめとこそそはれ

山嶺林

山崎の庄

京竹のりせしきよの吹も月を巻のあきくみせ
松塵

日

ほゆるあれとふける園の月古寺松のちきもくくす所
庭

日

あふりく日雪巻のほわしつらのもくくあまあきあ
夕鐘

通村の庄

あきくあころ夕を敷てくあきくあ残さう祈のわくあ
寺近す鐘

山崎の庄

まくれ巻初のとふろあき敷てむくのあ鐘のしきいあ
古寺鐘

飛鳥の庄

山寺の初とあきくあき敷てあきくあ祈のわくあきくあ
山崎の庄

老屋の庄

法の多ふかりくあきくああき敷てあきくあ鐘は夕祈あきくあ
田中地

雅楽の庄

あきくああきくああきくああきくああきくああきくああきくあ
家打

通村の庄

あきくああきくああきくああきくああきくああきくああきくあ
船

山崎の庄

あきくああきくああきくああきくああきくああきくああきくあ
渡舟

日暮の庄

あきくああきくああきくああきくああきくああきくああきくあ
舟舟

通村の庄

あきくああきくああきくああきくああきくああきくああきくあ
舟舟

海色舟

同 白妙比呂土乃格うけてはゆるおの日さへ出る田子の浦舟
筏

山登り点 大井川にた筏のうき流るる水の色は
大井河もとも^河のなもろく日とのせもや筏はくさ

おを眺望

山登り点 棧舟をやはらぎの末のあきささるるもろくおを眺望の白雲
末遠きおを眺ふはける白雲やまろく棧舟のまふみゆき

海船望

山登り点 阿田小舟うき浪流やいつくおもあつ所なき地つ田の浦
海色眺望

山登り点 波ふり小舟のこころもろくおを眺望の海色の舟

山登り点 阿田波管らしきこころ舟も阿田の言ふうき浪流舟

山登り点 ねも阿ねのあつるあつる舟をせて月と雲とをねく浦舟

山登り点 ころりぬふ田のあつるちかろくおを眺望の沖の舟

湖船望

山登り点 湖舟を眺望の湖船望
おを眺望の舟

山登り点 夕あきおねのこころ舟もあつる月と雲とをねく浦舟

述懐

山登り点 いく人もあきさけ小舟共こころあつるおを眺望の浦舟
おろりたる舟を眺望の舟の舟を眺望の舟を眺望の舟

後水尾院勅点
通村多良
山登り点

山登り

何の事もむしうふらるる時あはれむをせらるるはくをせらるる

日長

我のこせに十と流しては十文字の二二とよはくをせらるる

日長

何とあはれ何とあはれ何とあはれ何とあはれ何とあはれ何とあはれ

近日常懐

日長

いと包のともくも海ふまはるる舟かうゝ海^海郎あはれ

日長

いつまでとあはれうかへく有明の月あはれうかへく

山登り

六十峰をちた事しあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

山登り

かきつもの言ふあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

山登り

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

山登り

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

山登り

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

山登り

山登り

通村云

世をくちて人師らしむ公せよ稀なる年ふを事なれど

以實云

物色^{これ}て何りあるも身を白くしし年のはのこも事ありしや

同

翁と初ふ六十字ふるも一書をつゝ事ある馬を召し出よん
寄花述懐

通村云

とせわん一人とやねとふのこゆし物かいら子首あつせを
何うせむのまき思ふは花の形をのまあつれや

同

と一世をうけてせ思ふ古所ふむける何や老の指のぬえ跡
寄高浦懐旧

以實云

老後懐旧

同慶貞

老ゆれて昔形猶ある其友也たむくおを南せ河原院佛
うし事を考ふん侍をうれは

非幸云

せせてさいのうし事を思ひ秋の愛は内のみえをうれん
秋のは人のもしく寄らあうしはうしき

以實云

とく終ある秋もいふあきいふのこをちきいらりきや死の愛
富たふたうと愛んぬ人の可あふ

同

不二此旅のすそ巻ふあうもくしたうの相傳は言の花を散
ら枝守詮知進捨巻あふ何や老あきいぬ

同

おと書くあふ

同

ちよゆてあける何や老もはき事めこ思ふは旅の形をあふ

板橋神社

日 一 由老の母を思ふに 祢々老を 枕ふふらん ところを 成神の いたし
事

日 一 一 かの 官の ぬくこと 業を 日うち 神に 人か 多れる

低

日 一人 比 橋う けりて 昔と 日か 田の 王 殿も ころと ころと ぬは

富士

日 豊 ちる 年を きて ありつ ぬる 田の せう けりて ころと ころと

日 年 日と 武代 けりて 日か ぬく けりて けりて けりて けりて けりて

日 一 つの ぬか つも ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか

通 ぬか の 山も ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか

望 ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか

同 東 海や と ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか

日 日 の も の ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか

光 ぬか の も の ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか

ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか

日 ぬか と 遠く して ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか

同 ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか

望 ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか

ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか

望 ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか ぬか

隆 興 住 名 け 市 あり

山寶山

あきしほきてさる住者の市人の懸あつ急も神や塔

同

しほきかく言の紫も海にわたりしうらと
雪田の玉川

通舟山

浦をき波の音も垣見もきてつらに雪田う多満川
雪のに同し新

山寶山

玉川も春てふ多し流るきて垣見もく
塔影くあ糸
みちけくはれ細

通舟山

月もくや入らりあつる毎止してむ子箱のあ糸や川らん

大京大義泰家集六
離別

あつらあつて人あつてはるをれい

山寶山

思ひきや後の世あつて突ても余はゆふ川らん
その人の書もはるあお糸

同山

減らさるのた糸もつきて残る言の末もあつら
初めく人あつてはるをれい

同山

あつらあつて事社もつてはるあつらあつてはるをれい
つらあつてはるをれい

あつらあつてはるをれい

山寶山

あつらあつてはるをれい
旅立人のあつてはるをれい

山遊記

日月をてまうをゆるき^て神もまうま^てあはれを

旅をいしめるの候か

日

候を名の旅のこわれを^てかゝるま^てあはれを

いしめるに^て旅の^てあはれを

かゝる

日

とあはれを^てあはれを^てあはれを

山遊記

山遊

山遊記

あはれを^てあはれを^てあはれを

山遊

山遊記

あはれを^てあはれを^てあはれを

山遊記

あはれを^てあはれを^てあはれを

山遊

山遊記

あはれを^てあはれを^てあはれを

山遊

山遊記

あはれを^てあはれを^てあはれを

山遊

飛章の長
野子口 長

草規このまゝくまゝくたゞしきをねらげらるるうはるる魚をえ

陸奥ふらむをゆるけり人のまゝくしきしはる

同 西と

まの海乃海乃と昔あそびをいん申ふ名にそふりて

本流の系陸奥ふらむをゆるけり

飛章の長

り来の海乃つしきをゆるけり

系月ゆつし陸奥ふらむをゆるけり

女あひけり人けり

通村の長

白川乃國海乃つしきをゆるけり

同

ゆん福てゆつしきをゆるけり

松戸の海乃つしき

飛章の長

知るるぬら福をゆるけり

下徳まこく福の室あて

同

う福も又こく福花乃山の名なり

通村の長

陸奥は山をゆるけり

取止はるる福をゆるけり

飛章の長

川舟乃をゆるけり

る陸奥をゆるけり

同

くけ申すし福をゆるけり

る陸奥の田見り

同

る陸奥も又こく原泉川

村松の海をゆるけり

同

海乃をゆるけり

漆し云可ふしあけり

秋章三

みふしにの流糸乃麻を海も多し 桂乃上ふよよとるこ北うく
陸奥子下を竹たけ名古首乃言ふよ色山岩城山とて
みちげくもあふれて流石の折ぬらし物とまうし 流石のれ

流石山乃うしとるやふ田のあふしのかさなるを

直取三

流石板乃まきとの田井は言はれよふ言ふこえてなることう休
こ若乃所湯とるるこ
こく次く山の桂葉ふ出る湯はらあふや 里はなるやもつらせ
陸奥石川こし祈ふ直とて

まよけ白もゆきくしはらなるもあふとせぬ早もあふ

秋章三

秋の流石はまふ原也とまけりらととて行柳こ
あのみこしれと
夕暮乃まの流くあふてあふ照映けり 秋のあふこうせ
白川乃実の神とて

秋章三

流し折て神やまきうし 東流は玉のうしを志く川乃まき
秋の流石はまふ原也とて行柳こ
名残とて田中ふらうしとるゆきとて

秋章三

ほふ出るりけり 田舎まきを柳うちまけりしとせき
馬鞍山とるゆきとて

秋章三

まき方たれまうとてまき乃馬鞍山とるゆきとるゆき
と流川とるゆきとて

秋章三

と流川やこふまきれとて流 棹ふ石もしとて流くしとて舟人

はるかに

関之をてえやうも、若殿の名をせても名もあふのし

陸奥の久くくまゆてあちのあつち

きつりけのうも人のもくまはな

新章

うちめくも飛ぶれをちまのあれぬてけとあちうも、陸奥

栗鳩と子川を渡りけりけりけり
舟橋た来し人の漕ぎし舟を

非章三兵

同くそり流しきけり舟をぬけし舟を

貞享元年八月来はし

公のうけし舟をぬけし舟を

うけし舟をぬけし舟を

非章三兵

友とてりし舟をぬけし舟を

うけし舟をぬけし舟を

日

七十ふと舟をぬけし舟を
おとし舟をぬけし舟を

白川の舟をぬけし

日

旅人の舟をぬけし舟を

二子らと舟をぬけし舟を

同

ある舟をぬけし舟を
ある舟をぬけし舟を

日

室八橋

日

標しり浅間の舟をぬけし舟を

舟橋の舟をぬけし舟を

日

舟をぬけし舟を

舟橋の舟をぬけし

日

舟をぬけし舟を
舟をぬけし舟を

暮らせりみもとの初もけしけ石の岩成けしの様とて
音降紙

日

神で目火のちりさのうらふもつや夜もまよふかの成

日

冬の来て秋よを後もまのわす氷のちりさのまふよ色のあま

日

日の初ふ氷の種をのちちほふ秋よを後まけとあうの成

二荒山のきしとらつらつとつらつとつらつとらつら

うとけは毎のまのうらとて

日

馬蟹ふるくけさその音の中さうちの外さし時あてとて

日えうを蟹あけぬるとして白川の雪を織

七音あまうらとてえはうとれと

日

けりふふ面さす七つのだらけけさあふとてえは白川の雪

布川山のきりけとて

日

おの極ふるれ成とてけしとて布川山のきりけとて

同く忘れけしの山のきりけとて

日

木のきつとももちりもむあけけと忘れをらぬ由

金津の山ちりけとて

日

川き車乃洞まうりて陸奥の金津の山の山石うらとて

初ねく蟹あけぬるとはまけりかたて

きのうをうらとて

同慶長

山とりりして残りさするやゆれは極み

以下九首並ヨリ二葉前ノ後面川舟のうらノ音ノ次ニ入ル

飛草

きのうふよこのまのわのわめくも海波のうらとて

通村

あまの河ももたのめくも海は積のすけり

世帯字

山をめぐりてるえゆるてんをりぬ

あつたつたふせれうとせすよほくさふのふかきま
ほくめその自あてられぬれと山の林麓ふくもろ
強うゆるれて

日

おのちをめぐりてるえゆるてんをりぬ

さくさく川を

通村云

わくわく川をのぼりて遠ざれと波の巻くる林をせせぬ

公望公望

橋川をよぶのそよよと人のあはれものもせぬけしきせぬ

橋川のそよよと川をよぶ

世帯字

水らやまあくるさくさく川をよぶのそよよと川の巻くる林をせせぬ

日

まあふれぬれと強ゆるめとさくさく川をよぶのそよよと川の巻くる林をせせぬ

栗の敷をよぶ

通村云

さくさく川をのぼりて遠ざれと波の巻くる林をせせぬ

哀傷

慶安四年四月廿日

大猷院殿から橋をせよじせよ

通村云

りつるふらまかす橋をせよじせよ

大猷院殿一先くをけりて自取山よて子親の

つとすゆる

日

免くをけりて自取山よて子親の

新くをけりて自取山よて子親の

つとすゆる

世帯字

かじりやとく移る日まの川をよぶのそよよと川の巻くる林をせせぬ

そのはま東市に美真はほくさふのふかきま

阿泥洹佛の字と句の上ふめて追言のころと
中^けなる奇の申ふ

通村の長

同

同

新章の長

同

同

ちうき世の別種の神の御もやとく種くしてつものころを
はのまふはうしてまのわらぬ人のまふをれまふとくつ
ゆいりあきいりて進く一あのはらるるまふを法のとく一
秋のは母おれく種く一人のまふとくみてきく
まふ種く種く種くあき法の小秋うまはふくきしお
ねまひり目殺ふまひしてあき法の遠はるとやれあけくうせ
又もうんあひてあきてり秋の別おも似ぬ及や想くま
想ふくまを種く一人の神よとあきやとく
一別種の神の意今まふくけてはまをぬらんと

いじらうせけるま

通村の長

けしもられ今て我身の神の意あはるあけきとくま
種くく友あひける人の卯月とくまおあはり
別^{これた}別^{これた}別^{これた}成^{これた}佛の文字と奇のまらふまてよま
け^{以下ナレ}奇^{以下ナレ}の申ふ^{以下ナレ}ま^{以下ナレ}ま^{以下ナレ}ま^{以下ナレ}

通村の長

同

そのまてはくまの人のまの意も種くあはるあけきとく
くまを種く種く種くあき法の小秋うまはふくきしお
友あひまふ人のまを種くしてまの意のち種く
まの意のち種くしてまの意のち種くして

新章の長

まの意のち種くしてまの意のち種くして
二月十日の種くしてまの意のち種くして

仁賢公

面はかいろふ多うとて有し一は
子と思ふをう面は多うとて有し一は
せむ

日

人毎ふ思ふ事世に中して思ふにふはう有し
憂前物やいふを生結てむとのう有し
憂前物やいふを生結てむとのう有し

日

憂前物やいふを生結てむとのう有し

直賢公

福より花のう事と誰も忘れず
憂前物やいふを生結てむとのう有し

光孝公

あけた教新をほし
貞享元年二月廿日
けふ

仁賢公

日

花あられに思ふそみて廿年
きけし月花あられをう
あつ

日

あつ

日

送る重てむあし
あき新をみよる
死むれ山

日

死むれ山
義依
あき新をみよる
死むれ山

日

植る新
任前物

日

思ふそよまてん居てるともあえ一人は花の庭の梅くえ
ついでに言のふりて

日

日

かく用を小せくしてたあゝぬまの別荘とやうくしまのま
老の病の思ひて河なし筑の川のきとまゝうゝまをまめ
目を癒すはふれくあゝうをうれい

日

日

日

日

日

日

葉のこふ散りやうもわいり花やういりけい庭をくは目
あきむう何そとみ花をまの上う庭とちまう、花見をう
花の枝小面とるもかをう若ら花やうく花小梅の葉の世の中
うゝももわいりあはせのあゝいそこ思ひらてい思ひら花
るる節小洞あやうさす境けい女川の船んしゆもをを
あき人のこことうまゝいふ花をうわいせり外とあきたしう

日

義徳墓のぼくをう

葉あ花や葉もこり花新く子のるのけ世ふ生終らひぬ
散て無ろ別荘もうあゝ言の上うさゝいあ城もさあうあけ
こつらゆもさふ梅のち花はうて

日

あいのをけさふ花徳のをを

花はとの病と四ふ花葉もけけう下まていうふるまうとて
あいのをけさふ花徳のをを

義徳追善か一念は陀佛のをを

あもさふあき世の人のあゝこことうまゝの神もぬれ花やうか
ぬらあ手法のあゝ小逆もあはゆ子をけ一節あゝて

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

日

仁賢の志

釈教の三戒の中釈教の三戒の中

日

さくをえぬ人の多きをや清く事言つぬ法の及分らん
逆くかひきこめをふかして二つともあきたきそはゆ
まけくすえぬいしりて七文字を釈教の心と
人の心をせしむ

日

くは法の光り照らす言はくすえぬはくやせしむ
舍利

通賢の志

言物同法

仁賢の志

物毎の法のはじめの意を言の終くはきやはくらん
番蓋十方

直教^何也

葉も亦ももろくかしく白らんほふらふ
折菊供佛

山^管何^也

ゆきもく西ふもゆん^山のまのいろもく
沙女^供佛

和^幸何^也

和田つとほ^山を^山て^山う^山おの^山月^山の^山草^山ふ^山す^山む^山か^山世^山
慈眼大師三十三回忌^山凌雲院^山信^山胤^山海^山初^山進^山
おち^山く^山う^山う^山を^山

山^管何^也

まき^山て^山も^山流^山の^山都^山を^山お^山く^山ま^山を^山の^山草^山ふ^山こ^山も^山は^山か^山う^山け^山
石^山佛^山若^山ら^山給^山く^山巻^山に^山後^山西^山院^山所^山製^山門^山主^山堂^山上^山院^山
家^山本^山家^山の^山等^山一^山座^山
還^山可^山如^山故^山

日

ち^山終^山こ^山ち^山也^山積^山ふ^山く^山草^山を^山て^山も^山ま^山毎^山同^山様^山の^山草^山と^山呼^山ぶ^山せ^山
我^山不^山愛^山身^山命^山

直^教何^也

物^山の^山命^山も^山と^山ま^山を^山え^山ん^山夕^山は^山ほ^山る^山多^山め^山あ^山そ^山
以^山様^山々^山礼^山遊^山諸^山国^山土^山

日

あ^山ふ^山こ^山う^山の^山法^山の^山様^山あ^山ん^山花^山咲^山梅^山も^山あ^山じ^山く^山草^山あ^山も^山
一^山切^山天^山人^山皆^山慈^山供^山養^山

日

ま^山の^山ま^山も^山法^山ふ^山ら^山ち^山は^山草^山を^山ち^山る^山天^山屏^山記^山女^山の^山神^山乃^山あ^山い^山凡^山
是^山身^山如^山も^山

同

か^山ら^山ま^山は^山ら^山て^山い^山う^山あ^山ん^山凡^山の^山上^山ふ^山ら^山を^山け^山い^山草^山め^山ま^山を^山ん^山は^山
是^山身^山如^山氣^山

同^山用^山寶^山何^山也

ま^山ら^山あ^山う^山草^山と^山つ^山も^山を^山て^山草^山あ^山ら^山う^山る^山・^山み^山の^山氣^山も^山あ^山ら^山じ^山
後

是身如電

西行集

是身如芭蕉

同

来定のみと

西行集

善中來定のみと

同

来定川極のみと

同

秋の夜にあらざるの念佛をききて

同

金剛經罪障即為消滅のみと

同

或禪もその瓦礫撃竹は法向をきくは

同

一處居士好を行々不落別處と云古刹をききて

同

曹洞偈 年遍山はあらしと

同

本翁至真の尺と云新小丸糸佛を安置して降ま
寺といふ寺あり或人かく欲二二とよせ候と云

茶

韻の字と面をくけて任倍河頃上人のよとてく
けき一音のやふ

同

夕日夕次西にせりてくふ紅系もくしちぬほりじうふ

流雲上へ此許よを血脈に付れくかゝるをて

同

ほの水もよの流のまひけてくもかゝるき雲深るせて

或法師の力へ念珠を送るくか色成れ上かか
つちゆまけ

同

知りてかをみくゆあをまくる玉の結ちり法るじうふ

神祇

多野神祇

同

まをちとくゆうけてくまらるあふらまに事の玉垣

社以馬

同

馬まやあじきくはは時はくせ十日のあもくまらる

社以杖

同

たれも皆いのをたはくあけて杖やまらんら輪る神杖

市子吃く進新玉津崎を四ふ

同

名り一子花のぬあゆあけて白くまあのか御一御

同

和歌の備のち砂をとめてくちりれぬの荒玉津一御

同

玉津崎をきてくちりれぬかやまこうれくくせ

小野

弘治三

神宮のねふあしけしてつゆゆふと一夜の寝るやあまら

慶賀

祝

弘治三

あまらや人のあまら日此きよのあまらとまてぬあまら

紀伊高門家司酒造若狭守源令綱綱の息孫あまら

付けるあまら祝と子孫あまら奇あまらあまら

同

若狭立はくゆあまら十あまらとあまらのあまらあまらあまら

同

あまらのあまらあまらあまらあまらあまらあまらあまらあまら

同

今年あまらあまらあまらあまらあまらあまらあまらあまら

同

あまらあまらあまらあまらあまらあまらあまらあまらあまら

同

あまらあまらあまらあまらあまらあまらあまらあまらあまら

同

あまらあまらあまらあまらあまらあまらあまらあまらあまら

通村の長

保子よ喜てよと世の善相おちしらの世の世とちよらうせ

夏祝

同村の長

我をよ代くもせ世世の世の世の世といふか

祝言

後水尾院勅
雅章の長

河子常れたかあき果る恵りれと世の世の世の世を
我をよ代くもせ世の世の世の世といふか

夏祝

通村の長

桜原山原に世を菊のつてよと世と世に世に世に

社以祝言

資子の長

ふゆせー病う世をうねのこの世と世と世と世と

日前祝

通村の長

晴るふくそらうとくはとらうん天照月うらみとわらみ

夏祝

同

呉牛の世のつてーと事と世と世と世と

以資子の長

恵りて我をよ代くもせ世の世の世の世といふか

同

いふーの世の世と世と世と世の世の世といふか

夏祝

通村の長

あきとくうゆき年とあかう七つの世の世の世といふか

夏祝

通村の長

神代に世をうけてと世の世の世の世といふか

夏祝

資子の長

恵りて世の世の世の世といふか

奇神御紀

寶天の慶賀

奇花紀

雅章の旨

寄竹紀

元慶の旨

寄鏡紀

寶賀の旨

寄月祈世

同

晴るるや世と久方乃天の下月のかみの神おいはりて
中川佐助守源久恒曰中賀初進松為久友

同慶の旨

同

同

妻秋も老せぬうけも子代の後進は、甲午と十の魚色の松
ふ代、少魚も、まつる砂住の白も、ちりある老も、好く、て、わん
万世も、立、別、て、らん、糸、け、上、ろ、山、松、う、え、と、産、ふ、う、け、て
為、島、度、土、曲、松、比、山、店、り、て、曰、十、賀、一、け、り、ける

お松原家と、り、う、ら、と

み、と、を、ま、け、ま、う、や、み、代、と、産、ん、甲、午、の、ち、り、も、ち、り、け、る、松

松賀千年

雅章の旨

六甲の飛り、あ、糸、と、い、く、け、る、夏、冬、と、う、け、ら、せ、と、や、産、ん

松賀週年

雅章の旨

わ、う、は、の、風、花、と、り、も、糸、竹、の、美、世、け、て、ゆ、き、け、り、ん

松賀週年

江表以長

此序之文也。其位每以心之。子友つる。一と

藁

和靖燒詩稿能因壞詠竹殊域異世雅因合
符契乎然而餘蒼殘葉散在千世也拾之為
編輯之為集其清香艷色人厚度哉人厚度
哉我

東北尹公鳴千倭竹五拾年未見竹稿備也
暨一旦捐館舍歎其成蠹棲滄泣探匣中獲
尹日颯詠若干首皆有清香有艷色
尹公用心也久矣予遇合於

尹公而共風月蓋有年。如今雪泣大成季三
龍分類爲六卷恨不令

尹公者之也。凡本邦哥客号家集者藉甚或

貪多或厭寡吟譜頗不清撰乎夫如

尹公忝始

後水尾帝勅點受二品法親王道晃前内府通

柑公前西相光廣卿儀同三司雅章卿特進

資慶卿弘資卿通茂卿玉唾詠一千余首不復

多乎不復美乎予尚不能嘗之槁點外數千

中而別得二卷餘悉附祝融是又靖困二公

之意也云嗚呼

尹公既没而玉音尚存矣惜哉吟骨朽於泉

下南無西方安養教主令

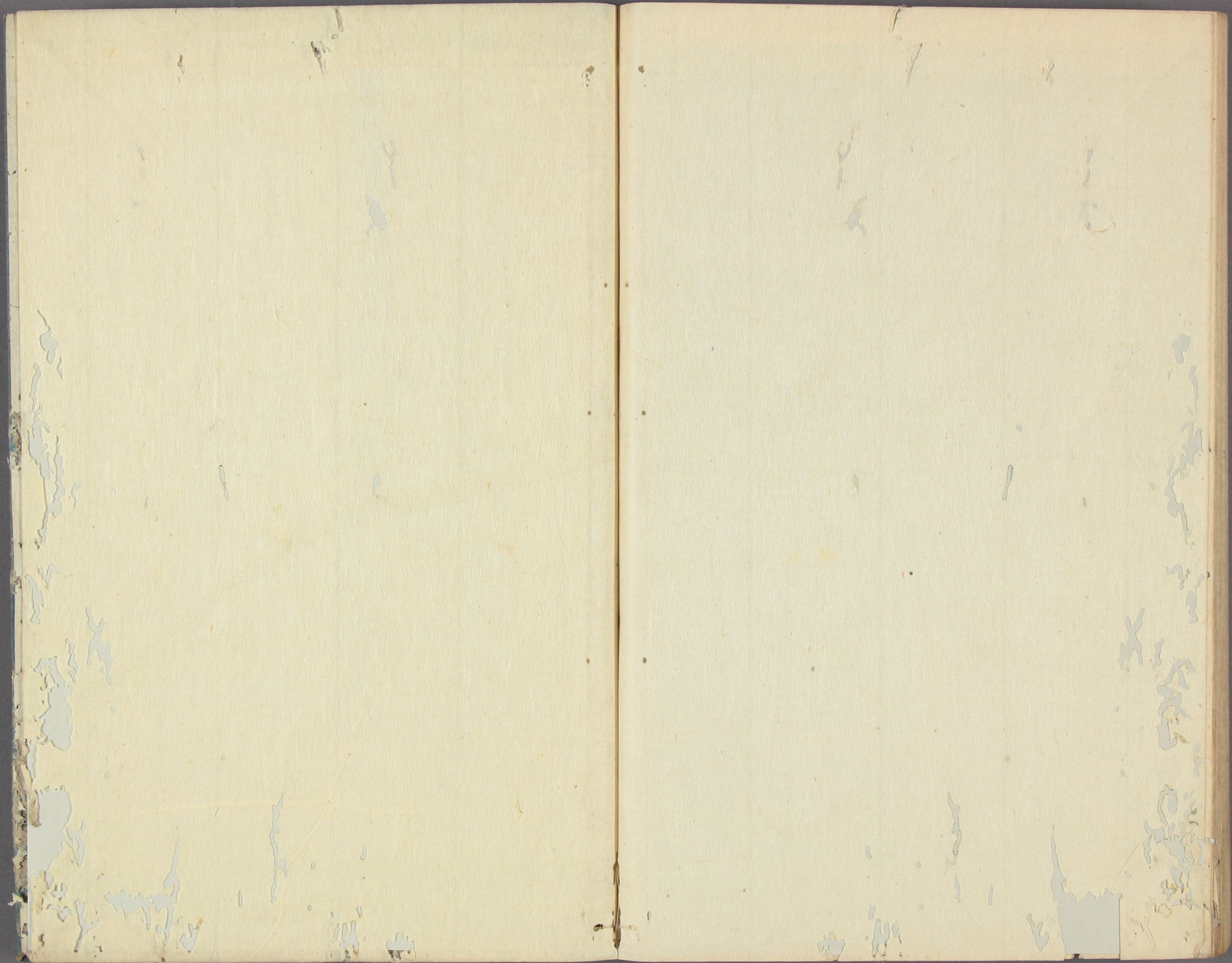
尹公風聲作常樂我洋風聲貞享三年暮春

十九日葛山處士爲寫護跋



家之風吹けてよ友とせむ響後山のまゝに云々

櫻心
代ふ
和奇の
屋ふ
あふの



Handwritten text, possibly a title or header, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a date or location, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a name or subject, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a description or note, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a list or entries, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a signature or conclusion, written vertically in cursive.

Handwritten text, possibly a date or location, written vertically in cursive.

